

## 物性物理学 No.3

61908697 佐々木良輔

### 問 1

$E_k^0$  は波数  $k$  の平面波のエネルギーに等しいので

$$\begin{aligned} E_k^0 - E_{k-h_1}^0 &= \frac{\hbar^2 k^2}{2m} - \frac{\hbar^2 (k-h_1)^2}{2m} \\ &= \frac{\hbar^2}{2m} \left( \left( \frac{\pi}{a} - \Delta k \right)^2 - \left( -\frac{\pi}{a} - \Delta k \right)^2 \right) \\ &= -\frac{\hbar^2}{2m} \frac{4\pi}{a} \Delta k = \frac{2\hbar^2 \pi}{ma} \Delta k =: \Delta E \end{aligned} \quad (1)$$

### 問 2

$$\begin{aligned} E_{\pm} &= \frac{1}{2}(E_k^0 + E_{k-h_1}^0) \pm |V_1| \sqrt{1 + \left( \frac{\Delta E}{2|V_1|} \right)^2} \\ &= \frac{\hbar^2}{2m} \left( \left( \frac{\pi}{a} \right)^2 + (\Delta k)^2 \right) \pm |V_1| \sqrt{1 + \left( \frac{\Delta E}{2|V_1|} \right)^2} \end{aligned} \quad (2)$$

ここで  $\Delta E \propto \Delta k$  であることから  $(\Delta E/2|V_1|)^2 \ll 1$  とすると

$$\begin{aligned} E_{\pm} &= \frac{\hbar^2}{2m} \left( \left( \frac{\pi}{a} \right)^2 + (\Delta k)^2 \right) \pm |V_1| \left( 1 + \frac{1}{2} \left( \frac{\Delta E}{2|V_1|} \right)^2 \right) \\ &\simeq \frac{\hbar^2}{2m} \left( \frac{\pi}{a} \right)^2 \pm |V_1| + \left( \frac{\hbar^2}{2m} \pm \frac{\hbar^4 \pi^2}{2m^2 a^2 |V_1|} \right) (\Delta k)^2 \\ &= E_{\frac{\pi}{a}}^0 \pm |V_1| + \frac{\hbar^2}{2m} \left( 1 \pm \frac{\hbar^2 \pi^2}{ma^2 |V_1|} \right) (\Delta k)^2 \\ &= E_{\frac{\pi}{a}}^0 \pm |V_1| + \frac{\hbar^2}{2m} \left( 1 \pm 2 \frac{E_{\frac{\pi}{a}}^0}{|V_1|} \right) (\Delta k)^2 \end{aligned} \quad (3)$$

### 問 3

(3) 式から分散関係は  $k = \pi/a$  近傍において図 1 のように 2 次曲線的な振る舞いをすると考えられる。また  $2E_{\frac{\pi}{a}}^0/|V_1| > 0$  なので  $E_-$  の曲率は  $E_+$  よりも小さいことがわかる。また基底状態の分

散関係は図 2 のようになめらかに繋がっているべきなので  $E_-$  の  $(\Delta k)^2$  の係数は負となるべきである. すなわち  $|V_1|$  の大きさは  $E_{\frac{\pi}{a}}^0$  に比べて十分小さいか, せいぜい同程度であるべきであり, そうでなければ摂動近似が成り立たないと考えられる.

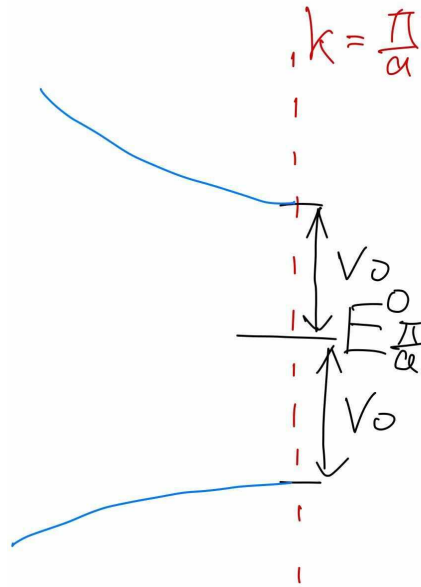


図 1  $k = \pi/a$  近傍での振る舞い

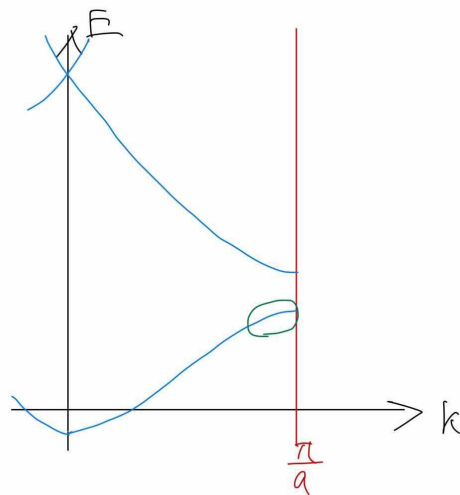


図 2 基底状態の分散関係